

大英図書館所蔵科学史関連文献集成 シリーズ1-3

The History of Science and Technology 1-3

[マイクロフィルム版]

佃彦志

1 はじめに

『大英図書館所蔵科学史関連文献集成（原題：The History of Science and Technology）』は大英図書館所蔵の膨大なコレクションの中から、科学の発展に寄与した主要人物の書簡、著述、手稿などをマイクロ化したシリーズである。本シリーズは科学の発展に寄与した人物の足跡や当時の科学、社会、文化の実相を探ることができ、科学分野のみならず多岐の分野に渡って活用できる資料である。本シリーズは現在のところ、全3シリーズで構成されており、本学では平成14年度にSeries 2～3（完結）を、16年度にSeries 1（継続中）を購入した。以下、本稿ではSeries 1～3を紹介したいと思う。

2 シリーズ1-3について

(1) Series1 : The Papers of Sir Hans Sloane, 1660-1753 from the British Library, London.

医師そして博物学者でもあり、王立協会会長を15年間務めたハンス・スローンの科学者や思想家、文豪と交わした書簡、自らの膨大な探検記録や航海記などの手稿が収められている。後にこれらのコレクションは大英博物館創設のきっかけとなった。

ハンス・スローン = Hans Sloane (1660-1753) について

ハンス・スローンは1660年4月16日、7人兄弟の末っ子として、イギリスのダウ州キリリー（アイルランド北東部）で生まれ、19歳の時から4年間ロンドンで学び、医学と植物学を修めた。また、1683年にはパリのUniversity of Orangeに入学し、同大学でMDを取得している。また、彼は医学の道で英国王室の待医になるまで成功しただけではなく、1727年にはアイザック・ニュートンの後を継ぎ、英国王

立協会の会長を15年間務め上げている。しかし、英国王室の待医や英国王立協会会長としての輝かしい肩書きよりも特筆すべきは奇特とまで言われるコレクターとしての横顔である。彼は1687年から1689年、ジャマイカ総督であるアルベマール公爵の待医として西インド諸島を巡り、約800種にも及ぶ植物の標本を収集した。その後も標本、写本等の収集を続け、92歳でその生涯を閉じた時には多種に渡る植物の標本、膨大な書物、書簡、3,560冊の写本と遺書が残された。遺書の中でスローンはイギリス議会に対し、次の2つの提案をしている。ひとつは、残された自分の娘二人の為に彼のコレクションを2万ポンドで買い取って欲しいこと、もうひとつは、コレクションを一般に公開するための施設を作ることである。当初、議会では、スローンのコレクションの価値を疑問視する声もあったが、スローンの意思の賛同者や管財委員会の力添えによって議会がコレクションを受け入れることを決定した。面白いのはコレクションの購入費2万ポンドを捻出するためにイギリス政府が打ち出した政策が「宝くじ」だったことである。この宝くじは「スローン宝くじ」とも呼ばれ、予想以上に売り上げを伸ばした。その結果、イギリス政府は9万5千ポンドもの大金を得ることになった。この資金でスローンコレクションと現在の大英博物館の位置にあったモンタギューハウスを買い取り、コットン蔵書とハーレー蔵書を併せて収蔵したのが、現在の大英博物館の始まりである。

各パートについて

各パートの構成は次のとおりである。

Part1 : Science & Society, 1660-1773, 17 reels

ニュートン、ライプニッツ、ベンジャミン・フランクリンといった科学者や思想家、文豪らと交わした書簡が収録されている。

Part2 : Manuscript Records of Voyages of Discovery, 1450-1750, 20 reels

Part3 : Manuscript Records of Voyages of Discovery, 1450-1750, 20 reels

スローンが所蔵していた191点に及ぶ探検記録や航海記、冒険談などの手稿が収録されている。

Part4 : Alchemy, Chemistry and Magic, 18 reels

Part5 : Alchemy, Chemistry and Magic, 18 reels

錬金術・化学・魔術・オカルトに関する理論や実験を記録した手稿が収録されている。スローンの錬金術のコレクションは世界的にも有数であり、錬金術の盛衰の歴史を紀元前1900年から西暦1600年まで辿ることができる。



アイザック・ニュートンの書簡

(2) Series2 : The Papers of Sir Joseph Banks, 1743-1820

植物学者であり、王立協会会長を42年間務めたジョセフ・バンクスの個人文書が収録されている。内容は探検家、航海士からの書簡、バンクス自身の旅行記、貿易に関する資料であり、大英図書館が所蔵していたものをPart1-3として、オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州立図書館が所蔵していたものをPart4としてマイクロ化している。

ジョセフ・バンクスの = Joseph Banks (1743-1820) について

イギリスの博物学者バンクスは1743年2月13日、ロンドンで生まれた。少年期より植物に強い関心を持っていたバンクスは、長じてキャプテン・クックの第1回航海（1768年～1771年）に同行し、各地で

採集活動を行った。特にオーストラリア等から持ち帰った未知の動植物は多くのヨーロッパ人の関心を集めた。一方、王立協会の会長職を長年務めるなど、国内での影響力も大きく、親交を結んでいたジョージ3世を説得し、キュー植物園を世界中から収集した植物の研究センターとした。

各パートについて

Part1 : Correspondence and Papers relating to Voyages of Discovery, 1740-1805, from the British Library, London. 19 reels

Part2 : Papers relating to the Voyages of Discovery, 1760-1800, from the British Library, London. 16 reels

Part3 : Correspondence and Papers relating to Voyages of Discovery, 1743-1853, from the British Library, London. 16 reels

Part1-3まではバンクスの書簡集及び世界各地での冒険や旅行、貿易に関して彼が残した膨大な資料が収録されている。

Part4 : Correspondence and Papers relating to Voyages of Discovery 1768-1820, from the State Library of New South Wales. 14 reels

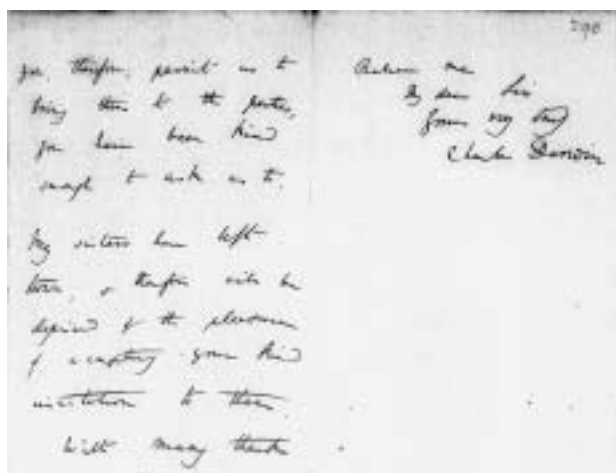
Part4では、バンクスの航海日誌、著名探検家、航海士からの書簡、バンクーバーとメンジースの米大陸西岸探検に関する記録等が収録されている。



ジェームズ・クック（キャプテン・クック）の自筆航海図

(3) Series3 : The Papers of Charles Babbage, 1791-1871

「コンピュータの父」と呼ばれるチャールズ・バベジの科学に関する文書集、科学者や数学者との間で交わされた膨大な書簡類、論文等が収録されている。



ダーウィンの書簡

チャールズ・バベジ=Charles, Babbage (1791-1871) について

1791年(1792年とする説もある)、裕福な銀行家の父 Benjamin Babbage と母 Elizabeth Plumleigh Teape の長男としてロンドンに生まれる。10歳の時に熱病を患い、療養の為ロンドンからデボン(イギリス南西部の州)に移され、回復後はアンフィールドの学校で3年間学んだ。当時、学校の図書室で手に取った代数に関する論文『Ward's Young Mathematician's Guide』に多いに感銘を受け、自ら学友とともに早朝クラスを立ち上げるほど数学に没頭した。その後、ケンブリッジ大学に進学し、卒業後に同大学の数学教授を務めたバベジは生涯の殆どを「階差機関」と「解析機関」と呼ばれる計算機の製作に費やした。

「解析機関」はパンチカードを用いて計算を行うもので、当時の機械装置では実現できなかったものの、現在のコンピュータの基本的な思想が殆どすべて盛り込まれていた。

各パートについて

Part1 : Correspondence & Scientific Papers from the British Library, London 22 reels

バベジの目録付の書簡集(20巻)、科学関連文書集(4巻)が収録されている。

3 さいごに

『大英図書館所蔵科学史関連文献集成』はこの原稿を書いている時点でシリーズ2-3は完結しており、シリーズ1はpart10までのうちpart5まで刊行済である。現在 Isaac Newton を始め、著名な科学者・物理学者の関連文書の企画があるとのことだが、詳細は未定である。今後のシリーズ展開が期待される。

参考文献

- ・松居竜五 [ほか] 著『達人たちの大英博物館』講談社 1996
- ・デイヴィド・クリスタル編 金子雄司 富山太佳夫日本語版編『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』岩波書店 1997
- ・下中弘編『世界大百科事典』平凡社 1988
- ・Lawrence Goldman 編『Dictionary of National Biography Online Edition』Oxford
- ・Adam Matthew の解説書
(つくだ さとし 閲覧参考課)